



安全データシート

Copyright, 2023, 3M Company. All right reserved. 本情報は、3M社の製品を適切にご使用頂くために作成したものです。複製および/またはダウンロードをする場合には、以下の条件をお守り下さい。(1) 3M社から書面による事前承認を得ることなく情報を変更したり、一部を抜粋して使用しないで下さい。(2) 本情報を営利目的で転売または配布をしないで下さい。

SDS番号	06-8564-4	版	11.00
発行日	2023/09/26	前発行日	2021/09/08

この安全データシートはJIS Z7253:2019に対応しています。

1. 化学品及び会社情報

1.1. 化学品の名称

3MTM マグネシウム&アルミニウムポリッシュ38529

3M スtockナンバー

60-9800-2971-8

1.2. 推奨用途及び使用上の制限

推奨用途

自動車

1.3. 会社情報

供給者	スリーエム ジャパン株式会社
所在地	本社 東京都品川区北品川6-7-29
担当部門	オート・アフターマーケット 製品事業部技術部
電話番号	042-779-2185

2. 危険有害性の要約

GHS分類

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性： 区分2 A

皮膚腐食性/刺激性： 区分2

水生環境有害性 短期（急性）： 区分3

GHSラベル要素

注意喚起語

警告

シンボル

感嘆符

ピクトグラム



危険有害性情報

H319	強い眼刺激
H315	皮膚刺激
H402	水生生物に有害

注意書き

一般：

P102	子供の手の届かないところに置くこと。
P101	医学的な助言が必要なときには、製品容器やラベルをもっていくこと。

安全対策

P264	取扱後はよく洗うこと。
P273	環境への放出を避けること。

応急措置

P305 + P351 + P338	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P337 + P313	眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。
P302 + P352	皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。
P332 + P313	皮膚刺激が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。
P362 + P364	汚染された衣類を脱ぐこと。再利用する場合は洗うこと。
P321	特別な処置が必要である（このラベルの説明を見よ）。

廃棄

P501	内容物／容器を国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。
------	------------------------------------

3. 組成及び成分情報

この製品は混合物です。

成分	CAS番号	重量%
酸化アルミニウム	1344-28-1	30 - 40
水	7732-18-5	30 - 40
水素化軽質石油留分	64742-47-8	18
オレイン酸	112-80-1	5.0 - 15
水酸化アンモニウム	1336-21-6	2.4
酸化鉄 (Fe ₂ O ₃)	1309-37-1	< 1.0
アミド	営業秘密	< 1.0

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合

新鮮な空気の環境に移動させる。気分がすぐれない場合は医療機関を受診する。

皮膚に付着した場合

直ちに多量の水で15分以上洗浄する。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。症状が続く場合は医療機関を受診する。

眼に入った場合

直ちに多量の水で洗浄する。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。すすぎ続ける。直ちに医療機関を受診する。

飲み込んだ場合

口をゆすぐ。気分が悪い時は医療機関を受診する。

予想できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

重大な症状や影響はない。毒物学的影響に関する情報はセクション11を参照する。

応急措置を要する者の保護に必要な注意事項

適用しない。

5. 火災時の措置

消火剤

火災の場合： 消火するために水あるいは泡消火薬剤などの、通常の燃焼物質用の消火剤を使用すること。

使ってはならない消火剤

情報なし。

特有の危険有害性

本製品では予想されない。

有害な分解物または副生成物

物質

一酸化炭素

二酸化炭素

条件

燃焼中

燃焼中

消火作業者の保護

ヘルメット、自給式の陽圧ないし加圧式呼吸装置、バンカーコート及びズボン、腕、腰及び脚の周りのバンド、顔面マスク、及び頭部の露出部分の保護カバーを含む完全保護衣服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

区域から退避させること。新鮮な空気での場所を換気する。大量に漏洩した場合、あるいは狭小な場所で漏洩した場合は、安全衛生手順にしたがって、蒸気の拡散、排出のための強制換気を行う。物理的有害性、健康有害性、呼吸保護、換気、個人防護については本SDSの他の項目を参照。

環境に対する注意事項

環境への放出を避けること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

吸収剤を加えても物理的危険性や健康および環境影響に関する有害性を有することに留意する。漏洩した物質を出来る限り多く回収する。密閉容器に収納する。洗剤と水で残さを清浄にする。容器を密封する。回収した物質は、国内外の法令や規則にしたがって、できるだけ早く廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意**取扱い**

子供の手の届かないところに置くこと。粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。眼、皮膚、衣類につけないこと。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。取扱後はよく洗うこと。環境への放出を避けること。酸化剤との接触を避ける（塩素、クロム酸等）。

保管

酸化剤から離して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置**管理項目****許容濃度及び管理濃度**

セクション3に表示されている成分名が、以下の表に見当たらない場合は、当該成分についての適切な作業時の許容濃度または管理濃度がないことを示している。

成分	CAS番号	政府機関	許容濃度または管理濃度	備考
酸化鉄	1309-37-1	JSOH OELs	TWA(総粉じん)(8時間):4mg/m ³ ;TWA(吸入性粉じん)(8時間):1mg/m ³	
酸化鉄 (Fe2O3)	1309-37-1	ACGIH	TWA (吸入性分画) : 5 mg/m ³	A4: ヒトに対して発がん性物質として分類できない物質
水酸化アンモニウムあるいはアンモニア水溶液から排出されるアンモニア	1336-21-6	ACGIH	TWA : 25ppm、STEL : 35ppm	
水酸化アンモニウムあるいはアンモニア水溶液から排出されるアンモニア	1336-21-6	JSOH OELs	TWA (8時間) :17 mg/m ³ (25 ppm)	
酸化アルミニウム	1344-28-1	JSOH OELs	TWA(総粉じんとして)(8時間):2 mg/m ³ ;TWA(吸入性粉じんとして)(8時間):0.5 mg/m ³	
不溶性アルミニウム、化合物	1344-28-1	ACGIH	TWA (吸入性分画) : 1mg/m ³	A4: ヒトに対して発がん性物質として分類できない物質
ジェット燃料 (非エアロゾル)、トータル炭化水素蒸気	64742-47-8	ACGIH	TWA (トータル炭化水素蒸気、非エアロゾルとし	A3: 確認された動物発がん性因子、経皮吸収

として			て) : 200 mg/m ³	性
ケロシン (石油)	64742-47-8	ACGIH	TWA (トータル炭化水素蒸気、非エアロゾルとして) : 200 mg/m ³	A3: 確認された動物発がん性因子, 経皮吸収性

ACGIH : American Conference of Governmental Industrial Hygienists

AIHA : American Industrial Hygiene Association

ISHL : 労働安全衛生法作業環境評価基準

JISOH OELs : 日本産業衛生学会許容濃度

TWA : 時間加重平均値

STEL : 短時間ばく露限界値

ppm : 百万分率

mg/m³ : ミリグラム/立方メートル

CEIL : 天井値

ばく露防止策

設備対策

空気中の有害物質をそれぞれの許容濃度以下に制御し、粉じん、フェーム、ガス、ミスト、スプレーをコントロールするためにも、一般的な希釈換気あるいは局排換気を行う。換気が適切に実施できない場合は、呼吸保護具を使用する。

保護具

眼の保護具

ばく露評価結果に準じた眼・顔の保護具を選択・使用する。下記の眼・顔の保護具を推奨する。

間接式換気ゴーグル

皮膚及び身体の保護具

ばく露評価に準じた皮膚接触を防止するために、関連した法令で認められた保護手袋・保護衣を選択・使用する。

推奨される手袋の材質 : ブチルゴム

フルオロエラストマー

ネオプレン

呼吸用保護具

ばく露に対して換気が不十分であれば、呼吸器保護具を着用する。

ばく露評価によって保護マスクが必要と判断される場合には、適切なものを使用する。ばく露評価結果に基づいて以下のものから保護マスクを選択する :

ろ過材付き有機ガス用半面形防毒マスク

特殊な利用に際して、マスクの適合性に疑問があれば、保護マスクのメーカーに相談する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理・化学的性質

外観	固体
物理的状態:	ペースト
色	ピンク

臭い	微アンモニア臭
臭いの閾値	データはない。
pH	約 9.4 (単位表示なし)
融点・凝固点	データはない。
沸点, 初留点及び沸騰範囲	70 °C
引火点	>=93.3 °C [試験方法: クローズドカップ法]
蒸発速度	>=1 [参照基準: 水=1]
引火性 (固体、ガス)	区分に該当しない。
燃焼点 (下限)	データはない。
燃焼点 (上限)	データはない。
蒸気圧	データはない。
蒸気密度/相対蒸気密度	データはない。
密度	1.09 g/ml
比重	1.09 [参照基準: 水=1]
溶解度	中程度
溶解度 (水以外)	データはない。
n-オクタノール/水分分配係数	データはない。
発火点	データはない。
分解温度	データはない。
粘度/動粘度	629, 225 - 943, 975 セイボルト秒 [試験条件: 37.8 °C]
揮発性有機化合物	18 重量% [試験方法: カリフォルニア大気資源委員会第二章に基づいて算出]
揮発性有機化合物	197 g/l [試験方法: SCAQMD rule 443.1 での計算値]
揮発分	58 重量%
水と規制除外の溶剤を除いた揮発性有機化合物 (JIS-GHSの要求項目ではない)	349 g/l [試験方法: SCAQMD rule 443.1 での計算値]
モル重量	データはない。

ナノパーティクル

この製品はナノパーティクルを含有しない。

10. 安定性及び反応性

反応性

この物質は、特殊条件下では薬品と反応する可能性がある。このセクションの他の項目を参照する。

化学的安定性

安定。

危険有害反応の可能性

有害な重合反応は起こらない。

避けるべき条件

知見はない。

混触危険物質

強酸化性物質

危険有害な分解物

物質

条件

知見はない。

セクション5の燃焼中の有害な分解物を参照

11. 有害性情報

セクション2で区分表示が義務付けられている特殊な成分を含有する場合には、下記の情報と一致しない場合があります。また、成分の含有量が表示義務となる値以下の場合、成分のばく露が予想されない場合、あるいは製品全体を考慮した場合に、含有成分の毒性情報が、製品の区分、ばく露時の兆候や症状に一致しないことがあります。

毒性学的影響に関する情報

ばく露による症状

組成の試験結果や情報より、下記の健康影響が考えられる。

吸入した場合

気道刺激： 咳、くしゃみ、鼻水、頭痛、鼻と喉の痛みなどの症状。

皮膚に付着した場合

皮膚刺激： 発赤、腫脹、かゆみ、乾燥、水疱、ひび、痛みなどの症状。

眼に入った場合

眼への激しい刺激： 発赤、腫脹、痛み、催涙、角膜の曇り、視力障害などの症状。

飲み込んだ場合

胃腸への刺激： 腹痛、胃痛、吐き気、嘔吐、下痢などの症状。

毒性データ

セクション3に開示されている化学成分で以下に情報が無い場合は、そのエンドポイントに対して利用できるデータが無いか、分類するに十分なデータが無い場合になります。

急性毒性

名称	経路	生物種	値又は判定結果
製品全体	皮膚		利用できるデータが無い：ATEで計算。5,000 mg/kg
製品全体	吸入－蒸気 (4時間)		利用できるデータが無い：ATEで計算。50 mg/l
製品全体	経口摂取		利用できるデータが無い：ATEで計算。5,000 mg/kg
酸化アルミニウム	皮膚		LD50 推定値 > 5,000 mg/kg
酸化アルミニウム	吸入－粉塵 /ミスト (4時間)	ラット	LC50 > 2.3 mg/l
酸化アルミニウム	経口摂取	ラット	LD50 > 5,000 mg/kg
水素化軽質石油留分	吸入－蒸気	専門家による判断	LC50 推定値 20 - 50 mg/l

水素化軽質石油留分	皮膚	ウサギ	LD50 > 5,000 mg/kg
水素化軽質石油留分	経口摂取	ラット	LD50 > 5,000 mg/kg
オレイン酸	皮膚	モルモット	LD50 > 3,000 mg/kg
オレイン酸	経口摂取	ラット	LD50 57,000 mg/kg
水酸化アンモニウム	経口摂取	ラット	LD50 350 mg/kg
酸化鉄 (Fe2O3)	皮膚	非該当	LD50 3,100 mg/kg
酸化鉄 (Fe2O3)	経口摂取	非該当	LD50 3,700 mg/kg

ATE=推定急性毒性

皮膚腐食性/刺激性

名称	生物種	値又は判定結果
酸化アルミニウム	ウサギ	刺激性なし
水素化軽質石油留分	ウサギ	わずかな刺激
オレイン酸	ウサギ	わずかな刺激
水酸化アンモニウム	ウサギ	腐食性
酸化鉄 (Fe2O3)	ウサギ	刺激性なし

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

名称	生物種	値又は判定結果
酸化アルミニウム	ウサギ	刺激性なし
水素化軽質石油留分	ウサギ	軽度の刺激
オレイン酸	ウサギ	軽度の刺激
水酸化アンモニウム	ウサギ	腐食性
酸化鉄 (Fe2O3)	ウサギ	刺激性なし

呼吸器感作性または皮膚感作性

皮膚感作性

名称	生物種	値又は判定結果
水素化軽質石油留分	モルモット	区分に該当しない。
酸化鉄 (Fe2O3)	ヒト	区分に該当しない。

呼吸器感作性

セクション3に開示されている化学成分に対しては、利用できるデータが無いが、分類するに十分なデータが無い。

生殖細胞変異原性

名称	経路	値又は判定結果
酸化アルミニウム	In vitro	変異原性なし
水素化軽質石油留分	In vitro	変異原性なし
水素化軽質石油留分	In vivo	変異原性なし
オレイン酸	In vitro	陽性データはあるが、分類には不十分。
酸化鉄 (Fe2O3)	In vitro	変異原性なし

発がん性

名称	経路	生物種	値又は判定結果
酸化アルミニウム	吸入した	ラット	発がん性なし

	場合		
水素化軽質石油留分	特段の規定はない。	非該当	発がん性なし
オレイン酸	皮膚	マウス	発がん性なし
オレイン酸	経口摂取	ラット	発がん性なし
オレイン酸	特段の規定はない。	多種類の動物種	発がん性なし
酸化鉄 (Fe2O3)	吸入した場合	ヒト	陽性データはあるが、分類には不十分。

生殖毒性

生殖発生影響

名称	経路	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
水素化軽質石油留分	特段の規定はない。	雌について生殖毒性は区分に該当しない。	ラット	NOAEL 非該当	1 世代
水素化軽質石油留分	特段の規定はない。	雄について生殖毒性は区分に該当しない。	ラット	NOAEL 非該当	1 世代
水素化軽質石油留分	特段の規定はない。	発生毒性区分に該当しない。	ラット	NOAEL 非該当	1 世代

標的臓器

特定標的臓器毒性、単回ばく露

名称	経路	標的臓器	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
水酸化アンモニウム	吸入した場合	呼吸器への刺激	呼吸器への刺激のおそれ。	ヒト	NOAEL 非該当	

特定標的臓器毒性、反復ばく露

名称	経路	標的臓器	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
酸化アルミニウム	吸入した場合	塵肺症	陽性データはあるが、分類には不十分。	ヒト	NOAEL 非該当	職業性被ばく
酸化アルミニウム	吸入した場合	肺線維症	区分に該当しない。	ヒト	NOAEL 非該当	職業性被ばく
オレイン酸	経口摂取	肝臓 免疫システム	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 2, 250 mg/kg/day	108 週
オレイン酸	経口摂取	造血器系	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 2, 550 mg/kg/day	108 週
酸化鉄 (Fe2O3)	吸入した場合	肺線維症 塵肺症	区分に該当しない。	ヒト	NOAEL 非該当	職業性被ばく

誤えん有害性

名称	値又は判定結果
水素化軽質石油留分	誤えん有害性

製品及び成分に関する追加の毒性情報が必要な場合には、本SDSの1ページに記載した住所、電話番号にご連絡ください。

12. 環境影響情報

セクション2で区分表示が義務付けられている特殊な成分を含有する場合には、下記の情報と一致しないことがあります。セクション2の分類に関する追加情報が必要な場合は、弊社にお問い合わせください。また、成分の環境中での運命及び有害性は、成分の含有が表示義務となる値以下の場合、成分のばく露が予想されない場合、あるいは製品全体を考慮した場合に、この項の内容と一致しないことがあります。

生態毒性

水生環境有害性 短期（急性）

GHS水生環境有害性（急性）区分3：水生生物に有害。

水生環境有害性 長期（慢性）

GHS分類では水生生物への慢性毒性はない。

製品での試験データは無い。

材料	CAS番号	生物種	種類	ばく露	テストエンドポイント	試験結果
酸化アルミニウム	1344-28-1	該当なし	実験	96 時間	LC50	>100 mg/l
酸化アルミニウム	1344-28-1	緑藻類	実験	72 時間	EC50	>100 mg/l
酸化アルミニウム	1344-28-1	ミジンコ	実験	48 時間	LC50	>100 mg/l
酸化アルミニウム	1344-28-1	緑藻類	実験	72 時間	NOEC	>100 mg/l
オレイン酸	112-80-1	該当なし	分類にデータが利用できない、あるいは不足している。	該当なし	該当なし	該当なし
アミド	営業秘密	液状化	実験	3 時間	NOEC	>100 mg/l
アミド	営業秘密	珪藻	実験	72 時間	EC50	>100 mg/l
アミド	営業秘密	ニジマス	実験	96 時間	LC50	2.9 mg/l
アミド	営業秘密	ミジンコ	実験	48 時間	EC50	3.8 mg/l
酸化鉄 (Fe203)	1309-37-1	緑藻類	実験	72 時間	水への溶解限界において毒性は見られない	>100 mg/l
酸化鉄 (Fe203)	1309-37-1	ミジンコ	実験	48 時間	水への溶解限界において毒性は見られない	>100 mg/l
酸化鉄 (Fe203)	1309-37-1	ゼブラフィッシュ	実験	96 時間	水への溶解限界において毒性は見られない	>100 mg/l
酸化鉄 (Fe203)	1309-37-1	緑藻類	実験	72 時間	水への溶解限界において毒性は見られない	>100 mg/l

					い	
酸化鉄 (Fe2O3)	1309-37-1	ミジンコ	実験	21 日	水への溶解限界において毒性は見られない	>100 mg/l
酸化鉄 (Fe2O3)	1309-37-1	液状化	実験	3 時間	EC50	>10,000 mg/l
水酸化アンモニウム	1336-21-6	無脊椎動物	推定値	48 時間	EC50	21 mg/l
水酸化アンモニウム	1336-21-6	ニジマス	推定値	96 時間	LC50	1.8 mg/l
水酸化アンモニウム	1336-21-6	ミジンコ	推定値	48 時間	LC50	7.36 mg/l
水酸化アンモニウム	1336-21-6	ニジマス	推定値	73 日	NOEC	0.0278 mg/l
水酸化アンモニウム	1336-21-6	ミジンコ	推定値	21 日	NOEC	1.1 mg/l
水素化軽質石油留分	64742-47-8	緑藻類	実験	72 時間	EL50	>1,000 mg/l
水素化軽質石油留分	64742-47-8	ニジマス	実験	96 時間	LL50	>1,000 mg/l
水素化軽質石油留分	64742-47-8	ミジンコ	実験	48 時間	EL50	>1,000 mg/l
水素化軽質石油留分	64742-47-8	緑藻類	実験	72 時間	NOEL	1,000 mg/l

残留性・分解性

材料	CAS番号	試験の種類	期間	試験の種類	試験結果	プロトコル
酸化アルミニウム	1344-28-1	データ不足	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
オレイン酸	112-80-1	実験 生分解性	28 日	生物学的酸素要求量	78 %BOD/ThOD	OECD 301C-MITI (1)
アミド	営業秘密	実験 生分解性	28 日	二酸化炭素の発生	96 CO2発生量/理論CO2発生量%	OECD 301B - 修正シュツルム試験又は二酸化炭素
酸化鉄 (Fe2O3)	1309-37-1	データ不足	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
水酸化アンモニウム	1336-21-6	類似コンパウンド 好気性土壌代謝		半減期 (t 1/2)	6 時間 (t 1/2)	
水素化軽質石油留分	64742-47-8	実験 生分解性	28 日	生物学的酸素要求量	69 %BOD/ThOD (< 10日)	OECD 301F

生体蓄積性

材料	CAS番号	試験の種類	期間	試験の種類	試験結果	プロトコル
酸化アルミニウム	1344-28-1	分類にデー	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし

ウム		タが利用できない、あるいは不足している。				
オレイン酸	112-80-1	分類にデータが利用できない、あるいは不足している。	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
アミド	営業秘密	分類にデータが利用できない、あるいは不足している。	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
酸化鉄 (Fe2O3)	1309-37-1	分類にデータが利用できない、あるいは不足している。	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
水酸化アンモニウム	1336-21-6	類似コンパウンド 生態濃縮		オクタノール/水 分配係数	-1.14	OECD107 log Kow フラスコ振騰法
水素化軽質石油留分	64742-47-8	分類にデータが利用できない、あるいは不足している。	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし

土壤中の移動性

データはない。

オゾン層への有害性

データはない。

13. 廃棄上の注意**廃棄方法**

関係法令に従って、産業廃棄物として自社で処分するか産業廃棄物処理業者に委託して処分する。

14. 輸送上の注意**国内規制がある場合の規制情報**

船舶及び航空輸送上の危険物には該当しない。(国際連合危険物に該当しない) 取り扱い及び保管上の注意の項の記載による他、消防法などの法令の定めるところに従う。

15. 適用法令**国内法規制及び関連情報**

日本国内法規制（主な適用法令）

労働安全衛生法：危険性又は有害性等を調査(リスクアセスメント)すべき物（法第 57 条の3）
 労働安全衛生法：施行令18条の2 名称等を通知すべき有害物
 労働安全衛生法：施行令18条有害物質（表示物質）
 労働安全衛生法：施行令別表第6の2 有機溶剤
 消防法：指定可燃物（可燃性液体類）
 労働安全衛生法：令和4年厚生労働省告示第371号 がん原性があるものとして厚生労働大臣が定めるもの

主な法規制物質

労働安全衛生法：通知・リスクアセスメント・表示義務対象物質

成分	法律又は政令名称	2024年3月31日まで	2024年4月1日以降
水酸化アンモニウム	アンモニア	該当	該当
水素化軽質石油留分	ミネラルスピリット（ミネラルシンナー、ペトロリウムスピリット、ホワイトスピリット及びミネラルターペンを含む。）	該当	該当

16. その他の情報

改訂情報

セクション1：製品用途 情報の追加.
 セクション2：GHS分類 情報修正.
 セクション3：成分表 情報修正.
 セクション5：火災時情報（消火剤） 情報修正.
 セクション8：mg/m3 記号 情報の追加.
 セクション8：保護具 - 眼 情報修正.
 セクション8：ppm 記号 情報の追加.
 セクション8：呼吸器保護 - 推奨する呼吸保護具の情報 情報修正.
 セクション9：燃焼性（固体、ガス）情報 情報修正.
 セクション10：燃焼中の有害な分解物 情報の追加.
 セクション11：吸引毒性の表 情報修正.
 セクション11：生殖毒性の表 情報修正.
 セクション11：皮膚感作性の表 情報修正.
 セクション11：標的臓器 - 反復ばく露の表 情報修正.
 セクション12：成分生態毒性情報 情報修正.
 セクション12：残留性および分解性の情報 情報修正.
 セクション12：生態濃縮性情報 情報修正.
 セクション14：輸送上の注意の標準フレーズ 情報修正.
 セクション15：労働安全衛生法の表 情報の追加.
 セクション15：法規名 - 表 情報の削除.
 セクション15：適用法規のステートメント 情報修正.

免責事項：この安全データシート（SDS）の情報は、発行時における当社の知見に基づき正確であると考えていますが、当社は、その使用から生じる損失、損害または傷害に関する賠償責任を引き受けるものではありません。

（法令で要求される場合を除く）本SDSの記載内容は、記載されている範囲外の使用、あるいは他の物質と組み合わせでの使用では効力を持ちません。これらの理由から、お客様がご自身の用途に製品が適合しているかどうか

をご自身で評価することが重要です。加えて、本安全データシートは安全衛生情報もお伝えしております。日本国へ本製品を輸入されるお客様は、製品の登録・届出、物質量の監視、想定される物質の登録・届出を含む（これらに限定されるものではありません）適用される全ての法的要求について責任を負います。

3MジャパングループのSDSは日本のウェブサイトから入手できます。